

安全・安心なまちづくりは地域の絆で

地域安全マップづくり 指導マニュアル

危険な場所

この公園はフェンスがないため入りやすい。周りの家の窓も公園を向いていないため見えにくい。だから危険です。

安全な場所

この公園は囲いがあるので入りにくい。建物の窓も公園を向いているので見えやすい。だから安全です。

はじめに

～地域安全マップの取り組みについて～

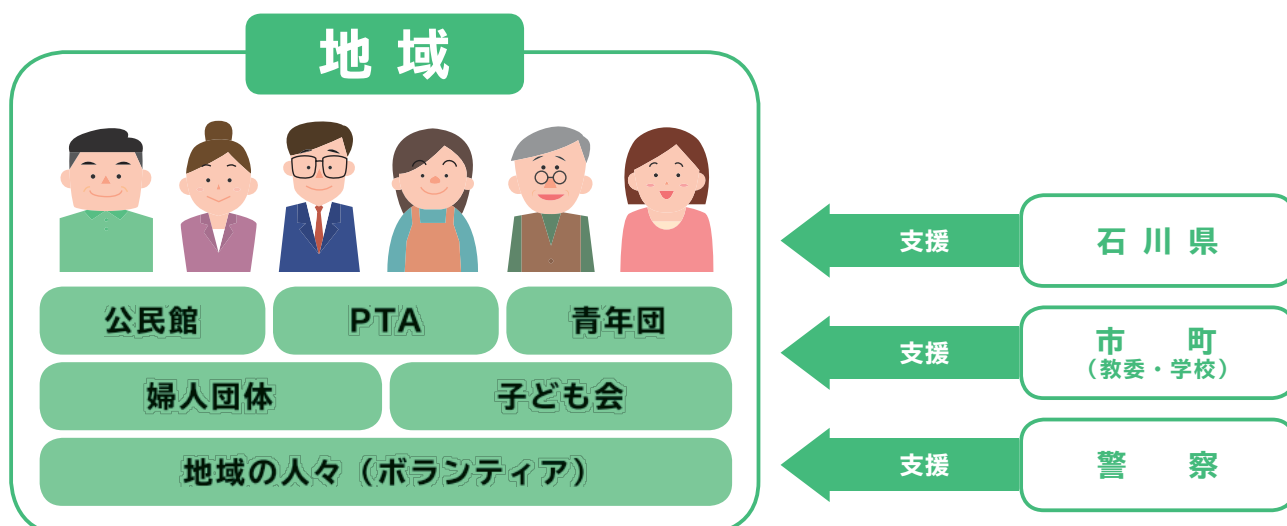
近年、全国でかけがえのない子どもの命が犠牲になる事件が発生しています。また、県内では、犯罪の認知件数自体は減少傾向にあるものの、事件化されないような子どもへの声かけや迷惑行為などの事案が数多く発生しています。

いま、あらためて地域社会の絆や連帯を活かして、地域社会全体で犯罪から子どもを守る、地域社会全体が防犯力を身に付ける取り組みが求められています。

地域安全マップの取り組みは、子どもが自ら通学路や遊び場などを点検し、周りから見えにくい、外部から誰かが入りやすい、といった視点から犯罪が起こりやすい場所を地図に表す作業を通して、日常生活の中で危険な場所を判断する力を身に付け、近づかない、警戒する意識を育む取り組みです。子どもが犯罪にあわないための力を身に付けるだけでなく、地域社会全体で犯罪から子どもを守るため、このマニュアルでは、地域安全マップづくりを地域の皆さまが一体となって取り組むことで、地域全体の防犯力の向上を目指すこととしています。（そのため、声かけや迷惑行為があった場所などをマップ化し、注意喚起を促す従来の取り組みとは性格を異にしています。）

こうしたことから、このマニュアルは、公民館、子ども会、PTAなど子どもたちと関わり合いが深い団体や防犯ボランティア団体など地域の皆さまが主体となって地域安全マップづくりに取り組んでいただけるよう、マップづくりを指導する方に向けて事前に準備するものや当日の段取りのほか、ワークシートの様式や実施事例の紹介など、実際に取り組む際に必要な知識や留意すべき点などをできるだけ詳しく、また誰でも行うことができるようやさしく解説することを心がけました。

子どもの安全確保は、安全で安心な地域社会の要です。誰もが安全で安心して生活できる社会の実現に向け、できるだけ多くの皆さまがこの地域安全マップづくりに取り組んでいただければ幸いです。



もくじ

地域安全マップづくり指導マニュアル

	はじめに	1
01	地域安全マップづくりとは	3
02	場所の説明に関する文章構造	4
03	地域安全マップづくり 全体の流れ	5
04	地域安全マップづくり 当日の流れ	
	STEP1. 事前指導	6
	STEP2. フィールドワーク	7
	STEP3. マップづくり	8
	STEP4. 発表準備と発表、事後学習	9
05	参加団体、地域の方々への事前説明について	10
06	地域安全マップづくり説明（パワーポイント）	
	事前指導編	11
	クイズ編	13
	フィールドワークの説明編	15
	発表・事後学習編	17
07	地域安全マップづくり準備に係る標準的なスケジュール	18
08	ルートの設定例	19
09	班の役割分担	20
10	石川県地域安全マップ 実施計画書と記載例	
	〔実施計画書〕① 実施概要 ② スケジュール ③ 班とルート	21
	④ 必要な備品等 ⑤ 文具リスト ⑥ 持参品等 ⑦ その他必要事項	22
	〔記載例〕① 実施概要 ② スケジュール ③ 班とルート	23
11	ワークシート集	24
	① 地域安全マップ 班長用シート①②	25
	② 地域安全マップ 記録係①記録シート	27
	③ 地域安全マップ 地図係②記録シート	28
	③ 地域安全マップ インタビュー係③記録シート	29
12	モデル事業の紹介	
	① 金沢市米泉公民館（金沢地区）	31
	② 白山市立千代野公民館（加賀地区）	32
	③ 七尾市中島地区コミュニティーセンター豊川分館	33
	モデル事業を総括	34

地域安全マップづくりとは

地域安全マップづくりと犯罪機会論について

地域安全マップとは、犯罪者が犯行を実行しやすい「危険な場所」や、犯罪者が犯行を避けがちな「安全な場所」を子ども自身がまちを探検することで発見し、その内容を地図にまとめていく活動のことです。

犯罪が発生するのは、犯罪企図者（犯罪を実行しようと考えている者）そのものの存在よりも、犯罪企図者に対して、「犯行の機会」を提供する環境（場所の構造や雰囲気）に原因があるという考え方があります。これは「犯罪機会論」と呼ばれています。

現在の日本では、しばしば「不審者」が「犯罪企図者」だと言われますが、犯罪者は外見からはわからないことのほうが多いのです。外見から見た不審者に注目してしまうと、真の犯罪者を見逃してしまいます。

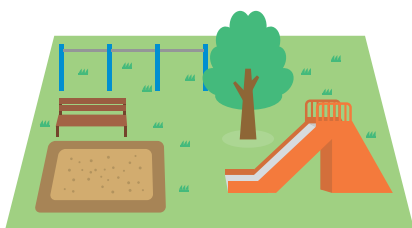
真の犯罪者には、どこからでも入り込め、犯行の実行中に周囲から見とがめられず、実行後に逃走しやすい「場所」を注意深く選んでいるという共通点があります。犯罪者は「入りやすくて見えにくい」場所を選んでいるのです。そこで、防犯を考える上で「人」に注目する考え方から、「場所」に注目する「犯罪機会論」への転換が求められています。

犯罪機会論を理解していれば、そうした場所を予測できます。予測できれば、様々な方法によって犯罪の発生を防止でき、子どもが犯罪の被害にあう可能性を減らすことができるのです。

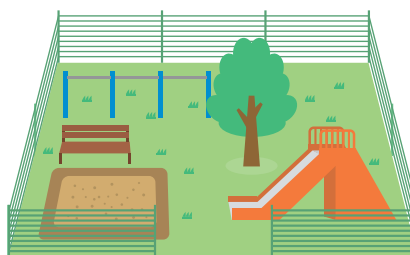
地域安全マップづくりのねらい

子どもが犯罪にあわないための力（抵抗力）をつけるために、「危険な場所（入りやすく、見えにくい場所）」や、「安全な場所（入りにくく、見えやすい場所）」を発見し、その理由を論理的に説明できるようになることです。また、地域の方々が、地域安全マップをもとに、地域をより安全にしていける方法を考えられるようになることも大切です。

危険な場所とは



安全な場所とは



地域安全マップづくりの目標

- ①（子どもたちが）犯罪にあわないためには、不審者に気をつけるのではなく、危険な場所と安全な場所を見抜く力を身につけることが大切だと理解し、それらのキーワードを説明できるようになる。
- ②（子どもたちが）実際の場所で、「入りやすい／入りにくい」「見えやすい／見えにくい」というキーワードを用い、さらに、その理由を具体的に説明しながら、安全な場所・危険な場所の判断ができる。
- ③（子どもたちが）協力しながら、正しい地域安全マップを作成できる。
- ④（地域の関係者などが）地域安全マップづくりで発見された危険な場所の解決策を考え、後日、実行に移すことができる。

場所の説明に関する論理構造

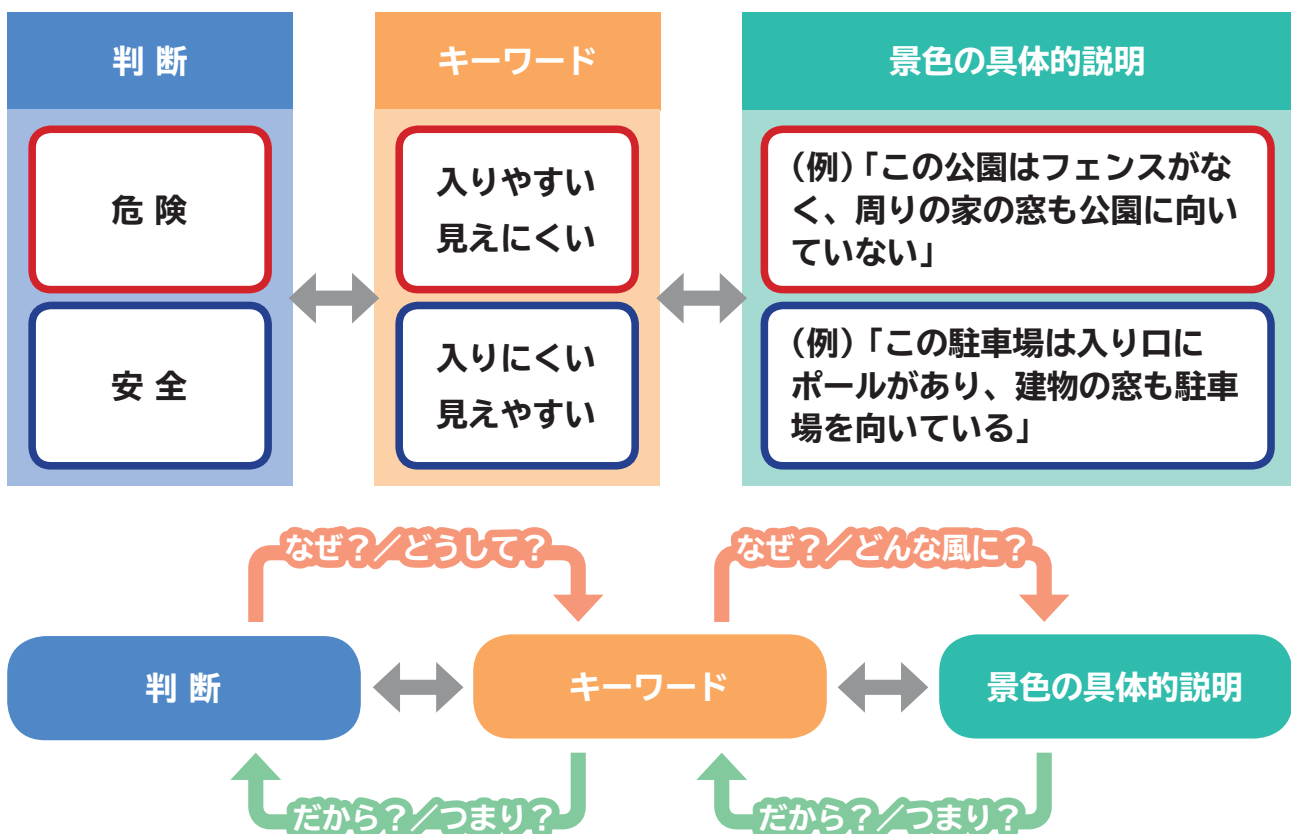
地域安全マップづくりでは、子どもたちはまず最初に、「危険な場所」とは「入りやすくて見えにくい」場所であり、「安全な場所」とは「入りにくくて見えやすい」場所だというキーワードを覚えます。これは、専門的に言えば、「場所の領域性と監視性が低いか高いか」ということです。これらのキーワードにもとづいて、危険か安全かを判断できるようになることが大切です。そのためには、フィールドワークで発見した場所の景色をキーワードと関連付けて具体的に説明できるようになる必要があります。

そこで、地域安全マップの指導者は次のような発問を心がけなくてはなりません。

子どもたちがフィールドワーク中に「この場所は危険だと思う」と発言したら、指導者は、「それはなぜ？」と問いかけましょう。すると、子どもたちは、「ここは入りやすくて見えにくいから」と答えるはずです。次に指導者は、「それはどんな風に入りやすくて見えにくいのか？」と問いかけましょう。そうすることで、子どもたちは、危険か安全かという判断とキーワードと景色の具体的説明をつなげて理解・説明できるようになるのです。

逆に、子どもたちが「この公園はフェンスがなくて、周りの家の窓も公園に向いていないね」と言うことがあります。その場合、指導者は、「つまりそれはどういうこと？」と問いかけましょう。すると、子どもたちは「入りやすくて見えにくい」というキーワードを答え、さらに指導者が「だから？」と問いかければ、子どもたちは、「この場所は危険」と答えるはずです。

このように、地域安全マップづくりでは、指導者が「なぜ？／どうして？」という問いかけや、「だから？／つまり？」という問いかけを繰り返すことによって、子どもたちの中で「判断」と「キーワード」と「景色の具体的説明」がつながっていくのです。



判断・キーワード・説明のつながりをたどるために、問いかけを2回繰り返す！

地域安全マップづくり 全体の流れ

事前準備

①実施計画書の作成 21～23 ページ参照

【別添】実施概要、スケジュール、班とルート（複数のルートを定め、各班の行動を調整）、備品の準備、文具の準備（班ごとの）※児童が準備するもの（帽子、水筒、雨具、筆記用具など）

②班とルートの設定 19, 20 ページ参照

一班の構成は班長をはじめ7～8人、ルートには危険な場所、安全な場所を組み込む。

③ 当日の役割分担の設定

< 事前指導 >		1～2人
・ 地域安全マップ作りの説明		
・ クイズの出題		（児童へのクイズ「危険」、「安全」問題6問）
・ フィールドワーク前の確認		（班長ほか役割の説明）
< フィールドワークの指導 >	児童と一緒に町を歩き、ねらいに基づく指導	班の数×2人
< マップづくりの指導 >	児童のマップづくりを指導	班の数×2人
< 児童による発表の進行 >	司会進行	1人
< 事後指導 >		1人

※ 参加団体の分担業務の確認

※ 18 ページの地域安全マップづくり準備に係る標準的なスケジュールを参照

「参加団体・地域の方々への事前説明」を実施 10 ページ参照

STEP1（事前指導）

- 危険予測に必要なのは「人」ではなく「場所」であることを理解させる。
- 「入りやすく」「見えにくい」というキーワードを理解させる。
- フィールドワーク時の班編成、役割分担、役割の確認をする。
- フィールドワークに出る際の注意事項を理解させる。

STEP2（フィールドワーク）

- 設定されたルートを参考にまちを歩き、危険な場所、安全な場所を見つける。
- 発見した場所を写真で撮り、ワークシートに記入する。
- 全員でその場所が安全または危険な理由を考える。
- 地域の人にインタビューをする。

STEP3（マップづくり）

- 子どもたちが歩いた調査ルートのみち並みをフリーハンドで書く。
- フィールドワークで撮影した写真を貼る。
- 目印となる地名などを記入する、その場所が危険か安全かをわかりやすく示す。
- 犯罪が起こりやすい（起こりにくい）場所の理由をキーワードを使ってコメントに書く。

STEP4（発表と事後学習）

- 調査ルート上の犯罪が起こりやすい（起こりにくい）場所について、キーワードを使って説明する。
※意見や感想を伝え合うことで、理解を深める。
- 学習したことを振り返り、「安全のための注意事項」について再度理解させる。

マップづくり当日（所要時間は約7時間※休憩時間1時間を含みます。）

指導要領

STEP1. 事前指導（30分程度）

※ 主語は「子ども」です。

目的

[知識理解] 犯罪にあわない力を身につけるために、危険な場所と安全な場所に関する知識を身につける。

目標

- ① 「地域安全マップを作ること、犯罪にあいにくい力を手に入れることができる」という全体のねらいを説明できる。
- ② 不審者は犯罪者とは限らないことと、人ではなく場所に注目すべきであることを理解し、キーワード（「危険な場所は、入りやすくて見えにくい」「安全な場所は、入りにくくて見えやすい」）を言えるようになる。
- ③ イラストで示される場所が危険であるか安全であるかを判断でき、キーワードとその具体的な理由を説明できるようになる。

指導者の留意点

- ・ 指導をする人は、全員がきちんと理解しているか、確認しながら学習を進めていく。「わかった？」と聞くと、小学生はわからなくてもうなずくので、適宜当てたり、「いま言ったことを繰り返してみて」などと言いながら進める。
- ・ クイズの理由を聞くときは、最初に手を上げた子どもだけでなく、しばらく待って、子どもの多くが手を上げてから、何人かに意見を聞く。
- ・ 出発前の班ごとの自己紹介の時には、小学生をきちんと落ち着かせてから話をする。「話を聞く姿勢をとるように」など。

指導要領

STEP2. フィールドワーク（80分～100分）

※ 主語は「子ども」です。

目的

[知識活用・応用] 学んだ知識を活用できるようになるために、実際にまちを歩き、安全な場所・危険な場所を発見できるようになる。

目標

- 1 事前学習で学んだ知識を活かして、実際に危険な場所や安全な場所を発見でき、その理由も説明できるようになる。
- 2 各自が自分の役割を自主的に果たし、班全体で協力しながら活動できる。

具体的な手順

- 1 指導者は子どもたち自身が、自分から安全な場所・危険な場所を理由をつけて指摘できるようになることが目標であることを伝える。
- 2 「危険な場所」や「安全な場所」を見つけたら、「入りやすくて見えにくい」「入りにくくて見えやすい」というキーワードと結びつけて考えさせる。
- 3 キーワードの具体的な説明を、その場所の景色をもとに考えさせ、内容をまとめて記録する。
- 4 それらの場所の写真を撮る。人が写りこまないようにする。
- 5 地域の人にインタビューする。指導者は声掛けを手伝ってあげると良い。

留意点

- ・ ルートを事前に歩いた人から、危険な場所、安全な場所を聞いて頭に入れておく。
- ・ 大人が先回りして答えを言わない。なるべく子どもに気づかせるようにする。
- ・ 子どもたちに、危険な場所・安全な場所を示した時には、子どもたち自身にその理由をきちんと考えさせる。キーワードと結びつけて考えさせる。
- ・ 誰かが気づいた場所は、ちゃんと止めて全員で考えさせる。
- ・ 子どもたちが常に課題に集中できるように気を配る。雑談をしたら、必ずそのあとで課題（地域安全マップづくり）に話を戻す。
- ・ 危険な場所だけでなく、安全な場所にも気づかせる。
- ・ 何よりも子どもの安全に気を配る。子どもは急に飛び出したりするので要注意。

目的

[知識確認・知識定着] フィールドワークで集めた情報や知識の理解を定着させるために、全員が集めた情報を共有しマップを作る。

目標

- 1 フィールドワークで収集した情報をまとめ、全員が危険な場所と安全な場所の理解を共有できる。
- 2 他者に伝えるための成果物（地域安全マップ）を協同作業によって作成できる。

具体的な手順

- 1 フィールドワークで調べた情報を地図にまとめることを伝える。
- 2 撮影した写真と記録シートを全員で突き合わせながら、「（ここは、どういう場所でどのように危険または安全だったんだろう？）など）話し合いをする。
- 3 地図作成のプロセスを子どもに意識させる。目指す地図のイメージを共有させ、その上で役割分担などに進ませる。（地図は正確さを求めない。北が上でなくても良い）
- 4 場所の説明として、①場所の概要（例：ここは〇〇の近くにある駐車場です、など）、②キーワード（例：入りやすく見えにくいので危険です）、③具体的な場所の説明（例：この公園にはフェンスがありません。周囲の住宅の窓も公園にあまり向いていません）、の3つが揃っているかを確認する。
- 5 スケジュールに間に合うようにする。作業は分担させる。地図を書く人、記録シートやインタビューシートの情報を転載する人、写真を整理する人など。
- 6 場所の説明は下書きを行ってから、チェックし、清書する。説明に NG ワードが入っていないか確認する。

NG ワード（詳しくは P15 スライド 2 を参照）

「暗い」「明るい」／「死角」／「見通し」「見晴らし」／「人どおり」／「ふしん者」

- 7 「地域安全マップ」という言葉が入っているか確認する。
- 8 自分の役割が終わった小学生には、別の課題（デコレーションなど）を与える。

目的

[知識確認・知識定着] 作ったマップを相互に発表し合うことで、作成したマップの内容を深く理解する。

目標

- 1 自分たちが調べたルートの中で、安全・危険な場所がどのようなところにあるか、またそれがどういう理由で安全・危険なのかについて、みんなの前で発表できる。
- 2 地域安全マップづくりを通した気づき（身についた力や感じたことなど）を、みんなの前で発表できる。

具体的な手順

- 1 自分たちが伝えたいメッセージを考えさせる。
- 2 話す順番を考えさせる。
- 3 話す内容を組み立てていく（歩いたコースと発見した場所について→各自が気づいたこと→班長全体のまとめ、など）
- 4 話す内容、話す姿勢など、どう人前で発表すればよいか、アドバイスをしてあげる。

事後学習

- 1 学習したことを振り返り、「安全のための注意事項」について指導。（P17 を参照）

参加団体、地域の方々への事前説明について

指導者は、事前学習が始まる前に、当日参加してもらう地域の方々に、地域安全マップづくりのねらいを十分説明してください。そうしないと方向性がバラバラになって、子どもが混乱するおそれがあります。

地域安全マップづくり全体のねらい

街頭犯罪の多くは、誰もが「入りやすく」、誰からも「見えにくい」場所で起きています。そこで、子どもたちには、「入りやすく、見えにくい」場所を見つける力を身につけさせ、そうした場所に近づかない、そうした場所では人に警戒するといったことができるようになる必要があります(犯罪への抵抗力をつける)。

フィールドワークでは皆様のご協力が必要です。以下の点に留意して、子どもたちのフィールドワークがうまくいくよう、ご配慮をお願いいたします。

フィールドワークの留意点

1. 地域安全マップづくりは、子どもたちが“犯罪”にあわないための力を身につけるために行っています(交通安全や事故などは考慮しない)。
2. “危険な場所”と“安全な場所”を子どもたち自身が気づいて発見できるようにします(先回りして子どもに教えたりしない)。
3. 子どもたちが“危険な場所”と“安全な場所”を発見したら、そこはなぜ危険なのか、なぜ安全なのか、という理由を子どもたちに考えさせてください。

なお、“危険な場所”をたくさん発見したからといって、通学路や遊び場などが危険でいっぱいということではありません。この活動は、子どもたちの「景色読解力」を身につけるためであり、子どもたちが知らない場所でも同じように“危険な場所”を発見し、その場所で警戒心を持ち、適切な行動が取れるようになることを目指しています。

その他留意事項

子どもたちに、「ルールを守ること」「協力すること」の大切さを常に意識させる。仲良くなることはよいが、はしゃぎ過ぎる子どもたちを落ち着かせることも大切。

事前指導編

地域安全マップ (ちいきあんぜんマップ)

あんぜんな景色ときけんな景色

1

今日の予定

- ①事前学習
- ②まち歩き（フィールドワーク）
- ③地域安全マップづくり
- ④発表

2

「地域（ちいき）」
「安全（あんぜん）」
「マップ」
ってなんだろう？

3

地域安全マップとは・・・

みんなが、**はんざい**にあわない
力を身につけるために、
自分たちの住むまちで見つけた
きけんな場所と
あんぜんな場所
をまとめた地図のことだよ！

4



5

みんなが
「**はんざい**にあう」って
例えば、
どんなはんざい？

6

「はんざい」に
あわないためには、
何に気をつけたら
いいの？

7

ふしん者
ってどんな人？

8

ふしん者がはんざい者か
どうかはわからない。
はんざい者は見た目では
わからない！

9

はんざい者ははんざいを
おこしやすい場所が
大好きです

10

大切なのは
「場所」に注目すること！

みんなが歩いたり遊んでいたりとするところには

- はんざいがおきやすいきけんな場所
- はんざいがおきにくいあんぜんな場所

があります。

11

今日のめあて
地域安全マップを作って
きけんな場所と、
あんぜんな場所を
説明できるようになり、
「はんざいにあわない力」を
みにつけよう！

12

キーワード

- きけんな場所
入りやすく、見えにくい
- あんぜんな場所
入りにくくて、見えやすい

13

入りやすく、見えにくい場所は
どうしてきけんなの？

●入りやすい場所

はんざい者が近づきやすく逃げやすい

●見えにくい場所

はんざい者におそわれても周りから気づかれにくい

14

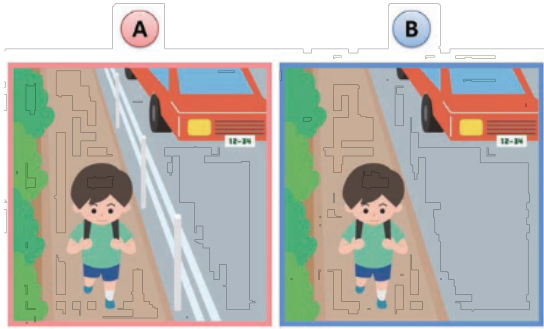
クイズ編

クイズ！

6問出します。
何問正解できるかな？

1

第1問 どっちがきけん？



2

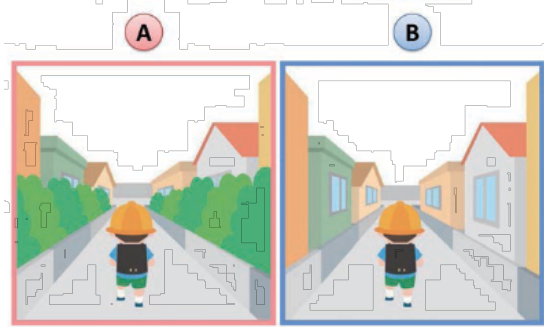
答え：B



Aは歩道と車道の間にガードパイプがあるけど、Bには何もないよ！
つまりBは入りやすいってことだね！

3

第2問 どっちがきけん？



4

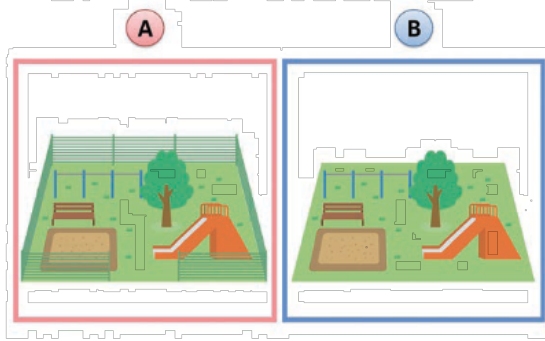
答え：A



Bは家の中から外の様子が見えるね！でも
Aは障害物（植木）があって外が見えないよ！
つまりAの道路は見えにくいってことだね！

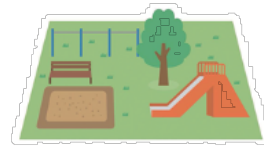
5

第3問 どっちがきけん？



6

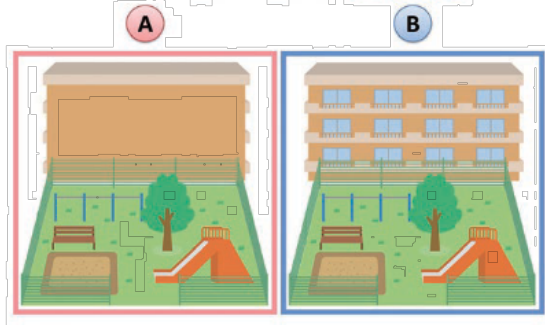
答え：B



Aの公園はフェンスで囲まれていて、入り口が一つしかないよ。でもBはどこからでも入れる。つまり、Bの公園は入りやすいってことだね！

7

第4問 どっちがきけん？



8

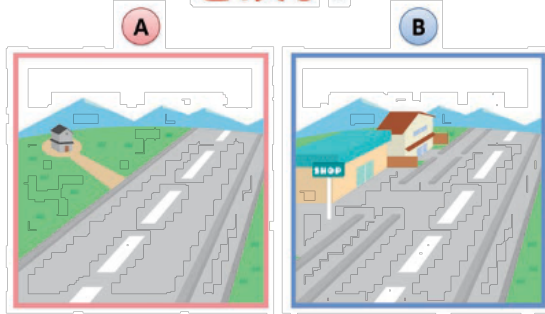
答え：A



AとBの公園は囲まれていて入りにくい！でも、Aのとなりのマンションの窓が公園を向いていないから、住んでいる人が公園の様子を見ることができない！つまりAの公園は見えにくいってことだね！

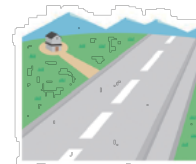
9

第5問 どっちの道路がきけん？



10

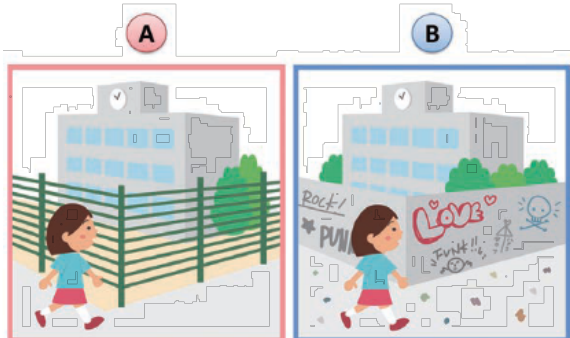
答え：A



Bの道路のわきには建物があって人がいる。でも、Aの道路は建物が近くになくて人がいない。見とおしは良さそうだけれど、見てくれる人がいない。つまりAの道路は見えにくいってことだね！

11

第6問 どっちがきけん？



12

答え：B



Bはへいがあって見えにくい。それだけでなく、落書きしてあったり、ゴミが散らかっているね！地域の人たちがこの場所に注意をはらっていないんだね。つまりBは2つの意味で見えにくい場所なんだ！

13

フィールドワークの説明編

キーワード

●きけんな場所

入りやすく、見えにくい

●あんぜんな場所

入りにくくて、見えやすい

1

地域安全マップのNGワード

- 「暗い」「明るい」
…明るいからといってあんぜんとは限らない ⇄
暗いからといってきけんとは限らない。
- 「死角」
…死角がなくても、「見えにくい」場所はきけんな場所。
- 「見通し」「見晴らし」
…人の目が感じられず、「見えにくい」場所はきけんな場所。
- 「人どおり」
…人通りが多くても、他人に関心が向けられてなければきけんな場所。
- 「ふしん者」
…ふしん者だからといって、はんざい者とは限らない。

2

まち歩き（フィールドワーク）

通学路や遊び場などを歩いて、
はんざい者が好きそうな
「きけんな場所」と
はんざい者がきらいそうな
「あんぜんな場所」を探します。

3

まち歩き（フィールドワーク）

「きけんな場所」と
「あんぜんな場所」を見つけたら、
・写真
・キーワード
・わかりやすいせつめい
を組み合わせ、
しっかりその場所の景色のようすを
説明できるように、みんなで考えよう。

4

役割

- 班長・・・・・・・・・1人
- 副班長・・・・・・・・・1人
- 地図係①・・・・・・・・・1人
- 地図係②・・・・・・・・・1人
- 写真係・・・・・・・・・1人
- 記録係・・・・・・・・・1人～2人
- インタビュー記録係・・・1人

5

班長

- 班のリーダー
→「班長シート」をもとに
みんなに何をするか指示する。
→みんなが仕事をしているか、
よそ見したり、
遊んでないかの気を配る。

6

副班長

- 班長を助ける。
- みんなの作業が遅れていたら、手助けしてあげる。

7

地図係①

- 地図を持つ。
- **あんぜんな場所**と**きけんな場所**をみんなが見つけたら、その場所にシールをはって、番号をかきこむ。

8

地図係②

- きろくシートと筆記用具をもつ。
- みんなが発見した**あんぜんな場所**や**きけんな場所**の説明（○○丁目、○○交差点の近く、○○公園など）を記録する。

9

写真係

- **あんぜんな場所**や**きけんな場所**を見つけたら、カメラを使って、その場所の景色がよく分かるポイントから写真を撮る
- 人は写らないようにする

17

10

記録係

- きろくシートと筆記用具を持つ。
- みんなが発見した**きけんな場所**と**あんぜんな場所**の理由や、その場所のくわしい内容を記録する。

11

インタビュー記録係

街の人たちにみんなでインタビュー!!

- 最近、**はんざい**が起きた場所や、**はんざい**がよく起きる場所を知っていますか？
- この地域は、**はんざい**が多いと思いますか、少ないと思いますか？
- **落書き**や**ゴミ**が放置されている場所が近くにありませんか？

インタビューのないようを記録する。

12

まち歩き約束

- ① **はんざい**が起きそうな**きけんな場所**や**あんぜんな場所**を自分たちで発見する。発見したら、その場所が**きけん**・**あんぜん**な理由をみんなで考える。
- ② 活動のためにみんなで協力する。
- ③ ルールを守る。**あんぜん**に気をつける。
- ④ まちの人とこうりゆうする。
インタビューはれいぎ正しく行う。

40

13

地域安全マップのつくりかた（指導者の方へ）

みんなで分担して以下のとおりにマップをつくっていきます。

- ① 「地図」、「写真」、「記録」を整理する。
- ② 全体のデザインについてみんなで考える。
- ③ 模造紙に地図を手書きで描く。目印になるような建物、地名や交差点などもかきこむ。
- ④ 「**きけんな場所**」と「**あんぜんな場所**」の説明（キーワードと具体的説明）、「インタビューの内容」を画用紙に書き込み、切り抜く（**きけん**、**あんぜん**、インタビューで色分けするとよい）。
- ⑤ NGワード（スライド2番）が入っていないことを確認する。
- ⑥ 地図に写真と説明、インタビュー結果を貼りこむ。
- ⑦ 「**地域安全マップ**」ということばと班の名前を入れる。
- ⑧ 折り紙・色紙などでかざりつけをする。
- ⑨ 発表の準備をする。

41

14

発表

事後学習編

まとめ

みんなが地域安全マップをつくる
ことでみにつけた力はなんですか？



きけんな場所、あんぜんな場所を
みわける力

1

きけんな場所は？

入りやすくて、
見えにくい

2

あんぜんな場所？

入りにくくて、
見えやすい

3

きけんな場所を
見つけたら
どうする？

4

きけんな場所で
人から声をかけられたら
どうする？

5

毎日歩く場所や、
遊ぶ場所がきけんか
あんぜんかたしかめて、
安心して楽しく
すごしてくださいね。

6

地域安全マップづくり準備に係る標準的なスケジュール

実施
3か月前

ステップ1（まず初めに）

実施主体（公民館）から地域の子ども会、防犯ボランティア団体、行政、教委、警察など各団体へ協力を依頼します。

ステップ2（参加協力団体が決まれば）

実施日、役割分担などのすり合わせをします。

.....

①実施日 ②当日スケジュール
③中心となりマップづくりを指導する者（※進行役）
.....

実施
2か月前

ステップ3（参加者の募集）

- ①取組みの周知
児童や地域の住民へのお知らせと地域安全マップづくり参加者の募集をします。

実施
当月

ステップ4（実施に向けた準備）

- <参加者確定後>
②ルートを選定（参加人数により複数のルートが必要）
③参加児童の班分けと役割分担
④参加者の役割（当日分）
⑤会場の決定（マップづくりメイン会場 ほか）
⑥その他（昼食の準備 ほか）



- ⑦実施計画書の作成
（当日スケジュールの詳細、事前打ち合わせ日、備品、文具ほか）
⑧事前打ち合わせ（マップづくり実施日の10日程度）
・実施計画書による最終確認
〔 当日のスケジュール、担当する業務（役割）、
ルート（フィールドワーク）などを確認 〕

当日

地域安全マップづくりの実施

ルートの設定例

- フィールドワークの時間を想定（目安 70 分 800m）
- 危険な場所、安全な場所が含まれているか事前に確認する。



班の役割分担

役職	役割
班長 (1名)	● 班のリーダー、みんなをまとめる。「班長シート」をもとに仕事の指示を出す。 ● みんなが仕事をしているか、よそ見したり遊んだりしていないか、気を配る。
副班長 (1名)	● 班長のアシスタント。みんなの作業が遅れていたら、手助けしてあげる。 ※人数に余裕がなければ割り当てなくてもよい
地図係① (1名)	● 地図とシールを画板に挟んで持ち歩く。 ● 安全な場所と危険な場所をみんなが見つけたら、その場所にシールをはるか目印を打つ（シールの色を青（安全な場所）と赤（危険な場所）などで分けて貼っても良い）。番号を順番にかきこむ（①～）。 ● インタビューをした場所に「あ」～「お」の印を打つ。
地図係② (1名)	● 地図係②記録シート（P28）と筆記用具を画板に挟んで持ち歩く。 ● 安全な場所や危険な場所をグループで見つけたら、その場所の説明（〇〇丁目、〇〇交差点の近く、〇〇公園など）を（周りの大人の協力を得ながら）記録する。
写真係 (1名)	● カメラを持つ（持ち歩くときは大人が持ってもよい）。 ● 安全な場所や危険な場所を見つけたら、カメラを使って、その場所の景色がよく分かるポイントから写真を撮る。ただし、人は写らないようにする。 ● （参加人数が多い時は写真が混ざらないために）写真のすみに地図に記入した番号を書き込むか、ポストイットなどで番号を書いた紙を写真内に写り込ませて撮影する。
記録係 (1～2名)	● 記録係①記録シート（P27）を画板に挟んで持ち歩く。 ● みんなが発見した危険な場所と安全な場所の「理由」や、その場所の詳しい内容を記録する。 ● 一番負担の大きい作業なので、1班の人数が多い場合には交代で分担する。
インタビュー記録係 (1名)	● インタビュー記録係③記録シート（P29）を画板に挟んで持ち歩く。 ● みんなで、まちの人たちにインタビューする。その内容を記録する。

石川県地域安全マップ 実施計画書

① 実施概要

実施場所			
打ち合わせ日	平成 年 月 日 ()	時 ~ 時	
実施日	平成 年 月 日 ()		
参加者	学年・児童数	4～6年生	
	班編成		
	役割分担の事前決定	☐ 事前に決定	
ルート	ルート数		
実施場所等	控え室の場所		
	事前学習の場所		
	マップづくり場所		
	指導者の食事場所		
その他確認事項	☐ 弁当・昼食 ☐ 駐車場 ☐ バス駐車場所		

② スケジュール

③ 班とルート

班	ルート名	回り方	担当者
1 班			
2 班			
3 班			
4 班			
5 班			
6 班			
7 班			
8 班			

④ 必要な備品等

使用時	確認	品目	数量
事前学習	☐	スリッパ	指導者用（人数分）
	☐	名札等	指導者用（人数分）
	☐	プロジェクタ、スクリーン、ノート PC、	1 セット
フィールドワーク	☐	コース地図・カラーシール	1 班 1 ～ 2 枚
	☐	デジカメまたはインスタントカメラ	1 班 1 台
	☐	書き込みシート	1 班 1 セット
	☐	防犯ベスト	指導者用
マップづくり	☐	（カメラがデジカメならば）プリンタ、プリント用紙	1 台
	☐	模造紙	1 班あたり 1 枚
	☐	地域安全マップ文具セット（⑤を参照）	1 班あたり 1 セット

⑤ 文具セット

	品目	数量（1 班あたり）
☐	色画用紙 3 色（ピンク、ブルー、イエロー等）	2 ～ 3 枚程度
☐	のり（固形または液体）	2 ～ 3 本程度
☐	ハサミ	2 ～ 3 本程度
☐	水彩マジック（プロッキー） 12 色程度	1 セット
☐	ふせんセット（3 色程度ピンク・ブルー・イエロー）	1 セット
☐	カラーシール	1 セット
☐	セロテープ	1 ～ 2 本
☐	おりがみセット	1 セット
☐	画板またはクリップボード	4 枚程度

⑥ 持参品等

		品目
☐	小学生	筆記用具、帽子、タオル、水筒
☐	指導者	マニュアル、帽子、タオル、水筒
☐	その他関係者	

⑦ その他必要事項

昼食、飲み物（お茶、スポーツドリンク）は〇〇で準備。
 保険（小学生、地域の参加者）は〇〇で加入。

石川県地域安全マップ 実施計画書

〈記載例〉

① 実施概要

実施場所	〇〇公民館（〇〇市・町〇〇町〇丁目〇〇番）	
打ち合わせ日	平成30年 8月16日（月） 時 ～ 時 ※実施日の10日程度前	
実施日	平成30年 8月26日（日）	
参加者	学年・児童数	4～6年生 48名
	班編成	6班編成 1班あたり 8人
	役割分担の事前決定	☐ 事前に決定
ルート	ルート数	3ルート
実施場所等	控え室の場所	公民館 和室（1階）、教室（2階）
	事前学習の場所	大広間（2階）
	マップづくり場所	大広間（2階）
	指導者の食事場所	大広間（2階）
その他確認事項	☐ 弁当・昼食 ☐ 駐車場 ☐ バス駐車場	

② スケジュール（標準的なもの）

8:30～	準備
9:00～9:10	主催者挨拶
9:10～9:40(30min)	事前学習（担当者：〇〇〇）
9:40～9:50(10min)	グループ自己紹介・役割確認
9:50～11:00(70min)	フィールドワーク
11:00～12:00(60min)	マップづくり①
12:00～13:30	昼食・昼休み
13:30～14:30	マップづくり②
14:30～15:20	発表・事後学習
15:20～15:30	片付け・解散

③ 班とルート

班	ルート名	回り方	担当者
1班	1	右	
2班	2	右	
3班	3	右	
4班	1	左	
5班	2	左	
6班	3	左	
7班			
8班			

11

ワークシート集

① 地域安全マップ 班長用シート

- ・ 1 班に 1 枚用意する 他に地域の参加者へ

② 地域安全マップ 記録係 ①記録シート

- ・ 1 班に 1 枚用意する

③ 地域安全マップ 地図係 ②記録シート

- ・ 1 班に 1 枚用意する

④ 地域安全マップ インタビュー記録係 ③記録シート

- ・ 1 班に 1 枚用意する

地域安全マップ 班長用シート①

班 名前

リーダーの心がまえ

リーダーの仕事は大切です。

1. (目標設定)「これから何をすべきか、みんなに伝える」
2. (率先垂範)「自分から行動する」
3. (仲間支援)「みんなを助ける」

まずは、班長さんがこの3つを実行することを心がけてください。副班長さんがいる時には、いっしょに取り組んでみましょう。

次に、どうすれば、班のみんなが同じように行動できるようになるかを考えてみましょう。

まち歩き時の仕事

1. 誰かが、気になるばしょをみつけたら、全員、その場所で止まるよう指示します。
まずは、班長さんが最初に気になるばしょを見つけられるよう、心がけてください。
2. その場所でみんなに質問をしましょう(①～④は順番が入れかわってもよい)。

- ①「この場所はきけんですか、あんぜんですか？」

(答えがまとまったら) → 「きろく係さんはきろくしてください」

- ②「この場所にあてはまるキーワードはなんでしょう？」

(答えがまとまったら) → 「きろく係さんはきろくしてください」

- ③「なぜそのキーワードが当てはまるのですか？」

ばしょのせつめいをみんなで考えましょう」

(せつめいがまとまったら) → 「きろく係さんはきろくしてください」

- ④「この場所はどこですか？」

(答えがでたら) → 「地図係②はこの場所のせつめいを書いてください」

- ⑤「地図係①さんは、この場所にシールをはってください」

- ⑥「写真係さんは写真をとってください。

なるべく人が写らないように気をつけてください」

- ⑦「全員できましたか？」

(はい、とへんじがきたら)

→ 「では、次の場所を見つけられるように、みんなでがんばってさがしましょう」

「地図係さん、次はどの方向に歩けばよいか教えてください」

地域安全マップ 班長用シート②

班 名前

地図づくりの時の仕事

1. どんな地図を書くか、みんなで相談する。

- ① 全体のイメージを決める。
- ② 地図を書く係を決める。地図を書く係の人は地図を書き始める。
→地図を書く人は、「ちいき安全マップ」という言葉を入れるのを忘れないようにする。

2. 発見した場所のせつめい

- ① 「①きろくシート」と「②きろくシート」をならべ、その順番に「写真」を並べる。
- ② みんなで分担して、画用紙を切って、場所をせつめいする紙をつくる。
1枚ごとに、きろくシートをもとに、場所の説明をえんぴつで、
できるだけくわしく下書きする。

(れい)

ここは〇〇団地〇丁目にある公園です。この公園は、フェンスに囲まれていて、入り口が3つしかありません。つまり、入りにくいでしょう。

また、公園の木はきれいに切られていて、まわりから見えやすくなっています。

だから、この公園は安全です。

ここは〇〇交差点の近くにあるちゅうしゃじょうです。ブロックベいで囲まれているけれど、入り口にチェーンやポールなどがなく、入りやすい場所です。周りの家のまどは雨戸がしまっていて、見えにくい場所です。

だから、この駐車場はきけんです。

- ③ 下書きをチェックしてもらい、合格したら、ペンで清書する。
(チェックのポイント…1. NGワードがない。2. 説明が詳しい)
- ④ インタビューを書いた紙もみんなで作る。インタビューの内容をえんぴつで下書きをし、チェックしてもらう。合格したら、ペンで清書する。

3. みんなで、せつめいの紙と写真を地図にはっていく。インタビューの紙もはる。

- 4. みんなが気づいたことなど（かんそう、大事だと思うこと）を、
地図に書きこんでもよい。おりがみなどで地図をかざりつけよう。

5. 完成したら、発表のれんしゅうをする。

地域安全マップ 記録係 ①記録シート

班

番号		理由	くわしい内容
1	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	
2	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	
3	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	
4	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	
5	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	
6	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	
7	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	
8	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	
9	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	
10	あんぜん きけん	入りにくい 見えやすい 入りやすい 見えにくい	

※ 場所が「あんぜん」か「きけん」か相談してはんだんしましょう。理由も考えてください。

※ 番号が地図とあっているか、かくにんしましょう。

地域安全マップ 地図係 ②記録シート

_____ 班

番号	場所についてのせつめい
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

※ 場所のせつめいを人にも分かるように書きましょう(たとえば、通りの名前やこうさてんの名前、どちらの方向かなど)。地図の番号とあっているかかくにんしましょう。

地域安全マップ インタビュー記録係 ③記録シート

_____班

<インタビューれい>

「〇〇小学校〇年生の〇〇といいます。はんざいから自分たちの身をまもるための学習をするために、地域を調べているのですが、少しお時間をいただけますか？」

「さいきんはんざいが起きた場所とか、はんざいがよく起きる場所を知っていますか？」

「この地域ははんざいが多いと思いますか、少ないと思いますか？」

「らくがきやゴミがほうちされている場所が近くにありませんか？」

番号	インタビュー相手	内容
あ		
い		
う		
え		
お		

※ インタビューした場所を地図に書きこみましょう。

12

モデル事業の紹介

子どもの連れ去りや不審者による声かけなどが多発している状況を踏まえ、地域の防犯力向上を図ることを目的に、県内3地区（金沢・加賀・能登）において、地域防犯の専門家である北陸大学の山本教授の指導の下、地域が一体となって地域安全マップを作成するモデル事業を実施いたしました。

- ① 金沢市米泉公民館（金沢地区）
- ② 白山市立千代野公民館（加賀地区）
- ③ 七尾市中島地区コミュニティーセンター豊川分館（能登地区）

モデル事業を実施している様子を収めた動画は、
こちらをご覧ください。

https://youtu.be/dCW_MMcfQGU



金沢市米泉公民館
(金沢地区)

実施主体 : 金沢市米泉公民館
実施日 : 平成30年8月26日(日)
参加人数 : 120名(内小学生45名)
主な参加団体 : 公民館、子ども会、防犯ボランティアなど



〈参加した小学生の声〉

◆今まで生活をしているところに、いろいろ危険な場所があることに気付いた。

〈参加した地域の方々の声〉

◆日頃、大人から言われたことだけでなく、自分達で調べ、話し合うことは良いと思った。

◆子供自身が関わること・見ること・作ることで防犯力向上に有効だと思う。

〈公民館より〉

◆日頃、何気なく通っている道や遊んでいる場所にも、実は危険が潜んでいることを、子供だけでなく地域の大人たちもあらためて認識することにつながった。

◆友達と協力しながら、自分たちの手でマップを作成し発表することを通じて、安全に対する意識の向上だけでなく、創造性や仲間との協調性など子供たちにとってプラスになる面が数多くあると感じられた。

◆今回のモデル事業をもとに、より多くの方に周知していただき、この取組が石川県全域に広まることを願っています。



白山市立千代野公民館 (加賀地区)

実施主体 : 白山市千代野公民館
実施日 : 平成30年11月18日(日)
参加人数 : 105名(内小学生26名)
主な参加団体: 公民館、子ども会、防犯協会など



〈参加した小学生の声〉

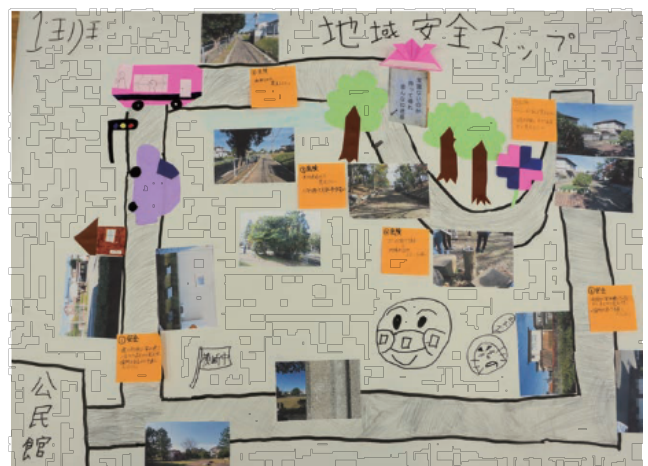
- ◆千代野の町は、結構平和で危ないところはないと思っていたけれど、今回の地域安全マップづくりをして、一度町を歩いて、よく見ておかないといけないと思いました。
- ◆危ない場所と安全な場所がよく分かった。

〈参加した地域の方々の声〉

- ◆大人だけでは見逃してしまう部分も子どもと一緒にだからこそ気付けることもある。
また、子どもの 防犯意識が高まる。
- ◆大人も子どもも楽しみながら防犯について学ぶことができ、よい機会だった。
- ◆地域安全マップづくりに取組んだことで、地域の絆が生まれた。

〈公民館より〉

- ◆「危険な場所と安全な場所」のキーワードを覚えたことや、学生さんとの交流、山本先生の講座等、子どもたちはもとより、地域住民にとってもたくさんの気づきと経験ができた。
- ◆モデル事業の成果を地域防犯に活かしていきたい。



七尾市中島地区コミュニティセンター豊川分館 (能登地区)

実施主体 : 七尾市中島地区コミュニティセンター豊川分館
実施日 : 平成30年10月6日(土)
参加人数 : 80名(内小学生20名)
主な参加団体 : 公民館、子ども会、各町会など



〈参加した小学生の声〉

- ◆危険な場所はあるべく通らないようにしたい。
- ◆これからも、危険な場所、安全な場所を考えていきたい。

〈参加した地域の方々の声〉

- ◆田舎だから犯罪が起きないと安心していましたが、意外と危険な場所が多いことに気付いたと思います。
- ◆犯罪は身近なものと考えていない子どもたちの意識が変化したように思う。
- ◆人ではなく、場所が重要だと分かった。

〈公民館より〉

- ◆地域の方々と一緒に歩いて、目で見えて、子どもたちが、自分で自分を守ることを考えるきっかけになった。
- ◆子どもも大人もそれぞれの目線で、考えることが出来た。
- ◆地域のことを見直す良い機会だった。



地域安全マップづくりモデル事業を総括



北陸大学経済経営学部 教授 山本啓一

石川県のモデル事業のキーワードである、「地域が一体となって」進められたことは、非常に大きかった。地域のつながりというものがあるからこそ、子どもの安全は守られる。地域防犯（地域安全マップづくり）は、地域の力の上に成り立っている。

今回の事業の一つのポイントは、地域安全マップを実施したことのない地域のために、指導用の動画を作成したことである。地域安全マップの動画を見ることで、やったことのない地域でも地域安全マップに対するイメージを持つことができるだろう。〈実施の際には、子どもたちを指導する指導者が必要である。〉今後、地域安全マップを指導できる人を地域の中で増やしていくことが大切である。

もう一つのポイントは、今回のモデル事業の実施主体が公民館だったことである。公民館の当事者意識は非常に強く、事業終了後に、次に自分たちがどのように環境改善をすべきかを考えていただいた。地域安全マップを作成したことで、防犯に対する地域の意識が向上しただけでなく、行動の変化にもつながった。このようなサイクルが定着すれば、地域の治安環境の変化に大きな期待ができる。

もちろん、そこには予算の問題もある。行政の支援が必要なこともある。道路や公園の管理などを含めた環境改善については、地域として何を手がけていくかということと、行政に対してどのような支援を要請していくか、といったことを考えていただきたい。

また、個人の住宅でも「植栽の管理が大事だね」「ブロック塀をフェンスに取り替えた方がいいね」というような意識を持つようになることも期待したい。そのような意識が地域全体の環境を安全に作り変えていくのである。

地域安全マップづくりで発見した危険な場所の対処方法を紹介

☆線路下の人道（トンネル）は、日中でも薄暗く、付近に街灯もないため、トンネル内の照明設置及び周辺の街灯設置について市に申請した。
（電気代は地元町会が負担）

☆生垣が伸びて、見通しが悪く通行の妨げになっている民家があったため、家主に依頼し剪定してもらった。

☆長年うっそうとしていた茂みを登下校する児童の姿が見えやすくなるよう、父兄と教職員が低い位置にある枝を刈るとともに、植え込みの低木などを伐採した。

安心・安全のまちづくりは地域の絆で

地域安全マップづくり 指導マニュアル

監 修 北陸大学経済経営学部 教授 山本啓一

【プロフィール】

1999年一橋大学法学研究科博士課程終了。2001年より九州国際大学法学部。地域安全マップを北九州の施策に発展させるとともに、北九州市安全安心条例作成委員の委員長を務めた。北九州市安全安心推進会議委員、福岡県警犯罪予防研究アドバイザー。2016年より北陸大学。2017年に石川県警防犯活動アドバイザーに就任。警察庁「持続可能な安全・安心まちづくりの推進方策に係る調査研究会」、公益財団法人日工組社会安全研究財団「大規模商業施設の防犯に関する研究会」等にも参加。

協 力 北陸大学未来創造学部・経済経営学部 大学生のみなさん

発 行 石川県生活環境部生活安全課
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地

地域安全マップは、国内の環境犯罪学の第一人者である
立正大学文学部社会学科小宮信夫教授が考案したものです。

<参考文献>

小宮信夫（2007）『親子で学ぶ「子どもの防犯」ワークブック』東京書籍

小宮信夫（2015）『なぜ「あの場所」は犯罪を引き寄せるのか：見てすぐわかる犯罪地図』青春新書インテリジェンス

小宮信夫（2015）『子どもは「この場所」で襲われる』小学館新書